

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	中原区第1グループ(新丸子)	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	子ども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

	H28	H29	H28	H29			
利用実績	1 新丸子子ども文化センター						
	①年間延べ利用者数		43,232人	38,502人	②年間延べ利用団体数	550団体	530団体
	2 上丸子小学校わくわくプラザ						
	①登録者数		445人	448人	②年間延べ利用者数	29,380人	27,307人
	3 西丸子小学校わくわくプラザ						
	①登録者数		315人	302人	②年間延べ利用者数	19,079人	19,704人
収支実績	単位:円						
	1 収入						
	指定管理料		56,027,839				
	2 支出						
人件費		48,568,746					
管理費		3,417,353					
事務経費		2,788,423					
その他経費		3,016,971					
合計		57,791,493					
3 差引		-1,763,654					
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。						

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「子ども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、子ども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・第1・第2グループ合同事業として、川崎市立橘高等学校と連携し「橘高校吹奏楽コンサート」を実施した。新たな取組として、高校生と参加者の交流を目的とした記念撮影会や楽器とのふれあいコーナーを新設するとともに、参加者の枠を幼児から高齢者まで拡大し、多世代交流や地域交流を促進した。また、羽根つきやわなげをゲームラリー形式で行う「新春むかしあそびゲームラリー」などを実施した。 ・新丸子子ども文化センターでは、新たな取組として、「シェアドッグ・子ども交流会」を4月と10月に実施した。普段、犬と触れ合う機会がない児童が、触り方や散歩の仕方等を学んだ後に、感想やイラストを発表することで、命の大切さを学ぶことが出来た。 ・西丸子小学校では、武蔵小杉駅周辺の人口増加や転出が激しい地域特性から、異学年交流を目的として、毎月1回子どもリーダーが中心となって「子どもリーダーと遊ぼう」と題した遊びの企画・運営をしており、学年を越えた交流が図られている。 ・こうした取組の結果、小学生の利用者数が昨年度と比較し、約300人増加した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「子ども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	4	4	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通じて、利用者ニーズ把握に努め、施設利用ルールや購入図書の設定等に反映している。 ・特別な配慮を有する利用者への対応について、小学校の先生と「情報交換会」を開催し、児童の特徴や学校での対応を学ぶとともに、「障がい児対応研修」や児童コーディネーターを講師とした「児童応対研修」を受講することで、職員の資質向上に取り組んでいる。 ・学校及び行政機関との連携について、小学校や老人いこいの家等と連携して、特色ある事業を実施している。特に、新丸子子ども文化センターでは、新たな取組として、中原中学校との連携により、中学生と乳幼児のふれあいを目的に「まるるんパーク」を実施した。読み聞かせコーナーや離乳食のお話し&カフェコーナー等で、中学生と乳幼児親子、80名ほどが参加し、交流を図った。 ・施設・事業の広報については、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて積極的な広報を行っている。また、中学生・高校生たよりや乳幼児向けたよりを発行するなど、対象年齢を捉えた広報を行った他、中原区役所発行の乳幼児情報誌「子ネット通信」に子ども文化センターの行事を掲載した。 ・保護者懇談会の実施について、懇談会が定期的に行われ、保護者の要望を把握している。上丸子小学校わくわくプラザでは、夏休み前の保護者懇談会で寄せられた、水遊びの回数を増やしてほしいとの要望に応え、夏休みの水遊びの回数を増やした。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置ができています。 ・職員の研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修が行われていた。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しており、研修資料やレポートをファイル等に一元化し、職員が閲覧出来る等、共有化の仕組み作りが出来ている。特に、乳幼児親子の利用者が増えている地域特性を踏まえ、子育てサロンを運営している元民生委員を講師に招いて、乳幼児研修を実施し、中原区内における乳幼児親子の取り巻く環境等を学んだ。 ・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実は無かった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 ・利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、実際の事故やヒヤリハット事例をもとに法人本部で「事例検討シート」を年2回作成し、館長会議、各館での職員会議、スタッフ会議と三階層において議論を重ね、そこで得られた対応策を集約して共有するなど、職員等の資質向上を図っている。また、アレルギー対応では、おやつ提供時などにおける複数人によるチェック、アナフィラキシー発症時の対応の勉強会、食物アレルギー研修参加職員による他職員へのフィードバック等も行っている。また、日本赤十字社神奈川支部の協力の下、「子どもの応急手当研修」を受講し、身近なもので出来る手当方法や誤飲の対処方法等、様々な事態に備えている。さらに、利用者の声を反映し、乳幼児室において乳児だけが使えるスペースを作る等、利用者の安全を確保に向けて職員の意識づけが図られるとともに対応がなされている。また、新丸子こども文化センターでは、事故や怪我があった時に、ミーティングやスタッフ会議、連絡ノートで情報を共有し、再発防止策を考えた。 ・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。また、地域教育会議の取組である「愛のバトロール」に職員が参加し、地域における子どもの見守りに寄与している。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。</p> <p>・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している。市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かし、全グループ合同行事、区合同行事等に加え、各館独自の事業も行い、豊富な行事を行った。また、利用者の声をよく聴き、運営の改善に活かすとともに、衛生管理、事故の防止や対応等利用者の安全確保に向けて取り組んでいる。「橘高校吹奏楽コンサート」、「まるるんパーク」、「シェアドック子ども交流会」など、地域との連携による行事やテーマ性を持った行事を実施している。施設の広報においては、乳幼児から高校生まで幅広い利用者を対象にたよりを発行しているだけでなく、中原区発行の情報誌への行事の掲載や中学校への配布も行っており、利用者の増加に努めている。</p>

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子ども顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。</p>
--